

小学校第6学年 算数科学習指導案

学習指導者 高松市立前田小学校 森本 早生里

1 単元名「データの整理と活用」

2 単元計画（総時数 9時間【本時2／9】）

○第1次 データの整理……………（3時間）

○第2次 ちらばりのようすを表す表・グラフ……………（5時間）

○第3次 学びのまとめ……………（1時間）

3 授業の見どころ

本単元では、前時までの学習も含めて振り返り、PPDAC（問題—計画—データ分析—結論）のサイクルを繰り返す統計的問題解決学習を行っている。児童の「どうして？納得がいかない。」「もっと詳しく調べたい。」などの意識をつなぐことで課題解決への意欲を高めるようにしている。本時では、前時での問題点からちらばりの様子に着目し、より詳しく調べることで新たな自分の考えや疑問点へつなぎ、児童の学習意欲を高めたい。

4 本時の学習指導

(1) 目 標

ドットプロットについて知り、それを使って各チームのデータのちらばりの特徴を考えたり、説明したりできる。

(2) 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
1 学習課題をつかむ。 ・ 平均値だけでは、決められない。表のデータだけでは、どの回数が多いか分からない。 ・ ドットプロットの図で整理するとチームのちらばりの特徴が分かりそうだ。	○ 前時の振り返りからランダムに並ぶ表のデータを整理し直して並べる必要があることに気づかせ、ドットプロットの方法を知らせる。 ○ 赤チームのドットプロットを例に、描き方や図の見方に見通しがもてるようにする。
㊦ ちらばりのようすをドットプロットに表して、チームの特徴を考えよう。	
2 表のデータの値をもとに、青と黄チームのドットプロットを作成する。 ・ 見落としや重ならないように気をつけよう。 3 ドットプロットをもとに、ちらばりのようすを話し合う。 ・ 赤チームはまとまってはいるが、まとまりが2つあるよ。64回あたりが多いな。 ・ 青チームは、55回～68回の間にちらばっている。平均値くらいにまとまっているな。 ・ 黄チームは、すき間が多いし、値がちらばっているよ。48回～71回とちらばりの範囲が大きい。55回より少ない日が多いな。 ・ ちらばりの範囲が狭い方が、記録が安定しているかも。 ・ ちらばりの範囲が広いと記録が高い日もあるが、低い日もあって安定していないかも。	○ QR コンテンツを活用して、いつでもドットプロットの描き方を確認できることを知らせる。 ○ ドットプロット作成の際には、グループで役割分担を行い、見落としや重なりに気づくようにする。 ○ 表のデータは、ドットプロットに反映させたら必ず線で消すことを助言する。 ○ 「確認シート」を使うことで、正しいドットプロットで、データの考察ができるようにする。 ○ ドットプロットの考察では、「何回から何回の間にちらばっているか」「まとまりがいくつあるか」などの視点で比べることで、だいたいの様子をつかませ、ちらばり方に着目できるようにする。 ○ ドットプロットに平均値、最大値、最小値を記入することで、同じくらいの平均値でもちらばりのようすに違いがあることに気づくようにする。 ○ 静ドットプロットを使って、データのちらばりの特徴を考えたり、説明したりできる。
㊦ 同じ平均値でも、ドットプロットで表すとちらばりのようすの違いから特徴が分かる。	
4 本時の学びについて振り返る。 ・ ドットプロットで表すと、平均値だけでは分からなかった記録のちらばりのようすが分かった。 ・ 平均値とちらばりのようすだけでは、代表チームを決めるのは難しい。もっと別の方法はないの？	○ 各チームのドットプロットから、自分ならどのチームを選ぶかを問うことで、一つの見方だけでは決められないことに気づき、次の課題へと意欲をつなげる。

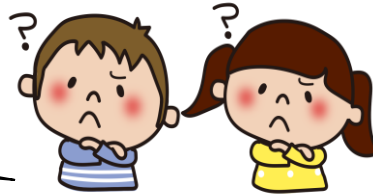
5 教材について

本実践の授業づくりポイント

児童が主体となって課題解決を目指す課題設定

○児童の新たな考えや疑問点を取り上げ、意識をつなぐことで課題解決への意欲を高める。

青チームは最高回数を出しているのに、平均値は低いよ。なぜ？う～ん？



平均値だけでは決められない。別の比べ方はできないかな？もっと詳しく調べたい！

○自分たちの日常生活で活用することで学習意欲を高める。

市の陸上記録会のリレーメンバー選びにもデータ分析が活用できそう。納得して選びたい！

テストの点数も、平均値だけでなく、様々な見方でデータを分析すると傾向がわかりそう。



みんなで大縄跳びも、データをドットプロットに表すと特徴が分かりそう。

図書の本の貸し出し冊数のデータを分析したら、読書月間に活用できそう。

本時の板書計画

